

## 令和6年度第2回佐賀県廃棄物処理施設専門委員会 意見要旨【議題（1）】

日 時：令和6年12月19日（木曜日）13時30分～15時15分

場 所：旧自治会館 2階 11号会議室

出席者：

○委員（会場）島岡委員長、市場委員、高島委員、田中委員、三島委員  
（オンライン）皆川委員

○事務局：循環型社会推進課 山口課長、山口副課長、草場係長、平山主査外2名

傍聴者：3名

報道機関：なし

### 【意見要旨 議題（1）】

- 斜面の安定計算において、石灰改良土による土堰堤の地盤定数に砂質土の地盤定数が使用されているが、石灰改良土は砂質土と同等の性状なのか。通常は、砂質土ではなく粘質土の地盤定数が使用されるのではないか。
- 斜面の安定計算において、地震の影響を考慮した計算は行われているが、大雨による影響を考慮した計算は行われているか。
- 浸透水集排水管の無孔部の一部しか図面上底土に埋まっていないが、無孔部が埋まるように設計されているのか。
- 浸透水集排水管を覆う栗石は、有孔管が目詰まりしないよう大きさが違うものを組み合わせていただきたい。なお、グラスウールは有孔管の目詰まりの原因になるので使用しないでいただきたい。
- 浸透水の水質測定結果があるが、浸透水という言葉をもどのような意味で使っているのか分からないので、説明していただきたい。
- 最終処分場の下流側の地下水測定地点は、可能な限り埋立区画の近くに設定していただきたい。また、当該測定地点が、埋立区画から流れてくる浸透水を確実に検出できるか確認いただきたい。
- 周囲水路の設計計算の表の流域面積について、どの流域を足しているか分かるように資料を作成していただきたい。
- 沈砂池の計算にある処理水量の「約4,500m<sup>3</sup>/h」はどのような雨を想定しているのか。

- 沈砂池の計算にある沈降速度の「13.32m/h」は達成できるのか。
- 地質が風化花崗岩であり、また、ボーリング調査で内部に隙間あるとのことであることから、間隙水が入ると更に風化が進んでボロボロになるので、大雨による地盤の風化を考慮した斜面の安定計算など行っていただきたい。
- 処分場の水収支（流入量、流出量）や、埋立区画通過後の水質（BOD等）、地盤の透水係数などはどのように想定しているのか。
- 最終処分場の地下水の帯水層と下流の集落の帯水層の関係、水収支や水質の想定などの調査が必要であり、問題がないことを地域住民に対して丁寧に説明していただきたい。
- 関係市長から「申請者は地域住民に対して、十分に説明し理解を得ること」旨の意見が出ていることから、住民に対して丁寧に説明して住民の理解を得ていただきたい。
- 浸透水の放流口と放流先河川下流が離れ過ぎではないか。離れている場合は、浸透水が希釈される前の評価のため、放流口直下での測定を検討いただきたい。
- 河川の生物への浸透水の影響も調査するため、浸透水が希釈される前の浸透水の放流口直下での測定も検討いただきたい。
- 搬入道路の交通量の現地調査はどこで行ったのか。
- 利害関係者から、「安良川において原因不明の濁り水が発生している」旨の意見が出ているが、今回の調査ではそのような事実はなかったのか。
- 水路③の勾配が40%程度あり、水が沈砂池へ滝のように流れ込み、巻き上げが起きる可能性があるが、沈砂池で対応できるか。
- 土堰堤の底部に透水性の高い建設残土を埋め立てたところがあるが、その部分に降った雨が流れてきて水が溜まらないのか。その水が下の風化花崗岩に入り風化していくことを懸念している。
- 土堰堤は透水性の高い建設残土の上ではなく、岩盤まで掘削してその上に設置していただきたい。

- 様々な情報を入手できるので、埋立区画の法面にも集排水管やガス抜き管の設置を検討いただきたい。
- 地域住民の安心のため、自社廃棄物の埋立てに当たっては、展開検査だけでなく溶出試験などを実施し、その結果の公表など実施いただきたい。
- 地域住民の安全安心のためや、地域住民の不安を取り除くための対応を取っていただきたい。